

令和7年度 研究推進計画

廿日市市立大野東小学校

1 学校教育目標

自ら学び 共に高まる 児童の育成
～家庭・地域の人と共に力を合わせて～

2 研究主題

伝え合う力を高め、読解力を育成する国語科の授業づくり
～説明文を中心に～

3 研究主題設定の理由

昨年度から、国語科の説明文単元を中心に、「伝え合う力を高め、読解力を育成する国語科の授業づくり」を主題として、研究を進めてきた。児童が付けるべき力を明確にし、それを達成するための単元づくりについて協議を重ねてきた。

また、「伝え合う活動」については、「伝え合いレベル」を活用し、目指す姿の具体を児童とも共有することができた。昨年度の「伝え合う力」についての学校評価アンケートの結果は以下の通りである。

学校評価アンケート対象者	学校評価アンケート項目	R6年度 結果
児童	自分の考えを相手に分かりやすく伝えようとしています。→肯定的評価	91.3%
児童	友達の考えを聞いて、「なるほど」と思ったり、新しいことに気付いたりしています。→肯定的評価	91.5%

上記の通り、「自分の考えを伝えたい」「相手の考えを聞きたい」という意欲は高まっており、伝え合うことの良さには気付いている。一方で、実際の授業では、相手の考えを理解しないまま聞き流してしまったり、自分自身の考えと比較したり、さらに新しい考えへと生かしたりすることはできていないという現状もある。そこで、昨年度の3学期より、聞き手を育て、伝え合いの「内容」のレベルアップを図るための会話の具体例を発達段階に合わせて示してきた。

また、昨年度の1月に実施した国語科(説明文領域)の標準学力調査の結果は以下の通りである。

(※△：上回る、▼：下回る)

	内容	校内平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
1年	○内容の大体を捉える	67.6	73.3 (▼5.7)
		38.0	39.1 (▼1.1)
	○重要な語を選び出す	72.5	82.9 (▼10.4)

2年	○内容の大体を捉える	72.4	69.7 (△2.7)
		69.0	72.0 (▼3.0)
	○重要な語を選び出す	63.4	56.3 (△7.1)
3年	○叙述を基に文章の内容を捉える	64.5	69.9 (▼5.4)
	○叙述を基に段落の内容を捉える	53.9	56.5 (▼2.6)
	○中心となる語や文を見つけて要約する	55.3	57.8 (▼2.5)
4年	○叙述を基に段落相互の関係を捉える	61.5	58.4 (△3.1)
	○叙述を基に文章の内容を捉えている	74.3	77.3 (▼3.0)
	○中心となる語や文を見付けて要約する	28.4	22.8 (△5.6)
5年	○叙述を基に文章の内容を捉える	79.7	72.1 (△7.6)
	○文章全体の構成を捉える	92.5	86.0 (△6.5)
	○目的に応じて、文章の情報を整理する	58.6	37.8 (△20.8)
6年	○叙述を基に文章の内容を捉える	46.3	46.1 (△0.2)
	○文章全体の構成を捉える	84.3	84.3 (=0.0)
	○目的に応じて、文章の情報を整理する	75.2	67.6 (△7.6)

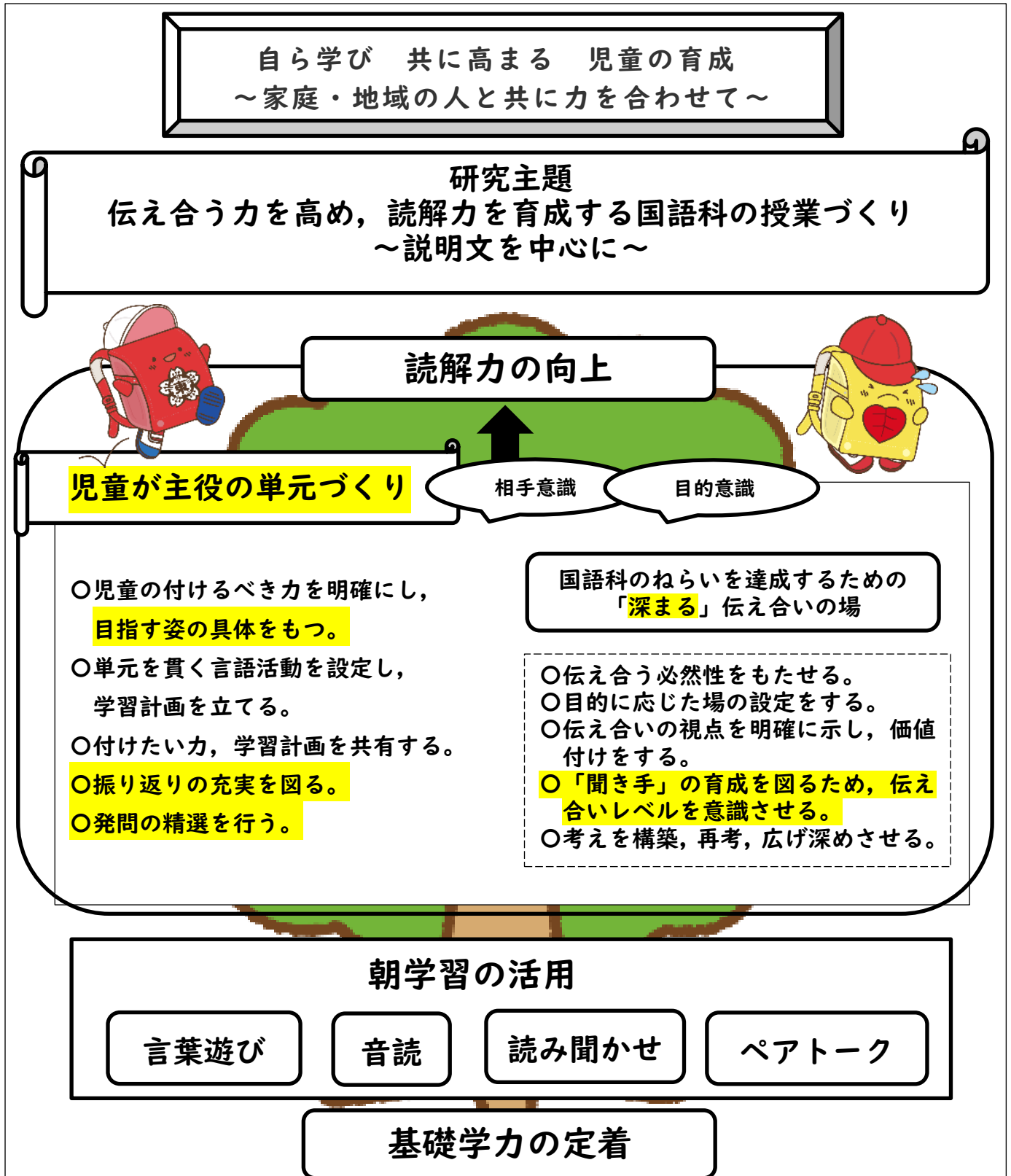
学年によって課題は様々である。例えば中学年では、重要な語や文章を選び出すことはできるが、必要に応じて自分の言葉を用いる等して短く要約することに課題がある。高学年では、文章と図表等の資料がどのように結び付いているのか捉えることはできるようになってきたが、その資料を活用することでどのような効果があるのかということまでは捉えられていない児童も多くいる。

文章を正しく読み、理解することができる児童を育成していくために、今年度も、文章の構成をとらえるのに適している国語科の「説明文」に取り組むことで、文章の的確な読み取り方や適切な表現方法を子ども達に身に付けさせていく。また、児童が主体的に学びに向かっているような単元設定や計画の工夫について協議し、本校で育てたい資質・能力である「伝え合う」学習活動を通して、今年度も、児童の「読解力」を育成していくための単元づくりや45分の授業づくりについて研究していきたい。

4 研究の仮説

- 児童が付けるべき力を明確にし、それを達成するための言語活動を設定した、単元づくりを行うことで、国語科の説明文における児童の読解力を育成することができるだろう。
- 相手意識・目的意識をもたせ、話し合う視点を明確に示した「伝え合い」を行わせることで、相手の意図を的確に読み取ったり、自分の考えを適切に表現したりする力を育成することができるだろう。

5 研究構想図



6 研究の内容と取組

(1) 単元づくりの工夫

○児童の付けるべき力を明確にし、目指す姿の具体をもつ

→ 学習指導要領解説を読み、その領域・単元を通して児童がどのような力を付ける必要があるのか、指導者が明確に把握する。

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学習に向かう力、人間性等」で設定したそれぞれの指導事項について、何ができたら目標達成なのか（B規準）の具体をもっておく。

児童自身が、単元全体を通して、学習のゴールを意識しながら、そのゴールに向かって、知識及び技能を使って、思考、判断、表現等をする活動

○単元を貫く言語活動を設定し、学習計画を立てる

→ 単元ゴールの児童の姿を明確にした上で、言語活動を設定する。

（例：紙芝居作り、ポスター作り、スライド作りなど）

- ・言語活動は、児童の興味を引いたり、実生活に関連したりするものにする。
- ・教材文での学習と言語活動につながりを持たせる。
- ・学習計画を立てる際は、「構造と内容の把握」→「精査・解釈」→「考えの形成」→「共有」のそれぞれの場面でどのような活動を行うのか、児童に付けたい力と関連させながら考える。
- ・教材文を読み取る際は、何のために教材を学ぶのか、相手意識・目的意識をもたせて行わせ、児童の意欲につなげる。

○付けたい力、学習計画の共有

→ 単元ゴールを児童に示した上で、単元を通してどのような力を付けていけばよいのか、どのような学習計画で進めていくのか共有する。

- ・学習計画の進め方や、表現の仕方を児童自身に選択・決定させてもよい。

○振り返りの充実

→ 児童が課題意識や見通しをもって学習に取り組み、自らの学びを振り返る場を設定する。

- ① 振り返りの視点を明確にする。（今日は…タイプで書こう）
- ② 2文で書き、2文目の文頭には接続詞を用いる。

○発問の精選

→ 教師が話しすぎない授業にするために、シンプルで焦点化された発問を精選する。

- ・授業のねらいが達成できるもの。
- ・児童の多様な考えを引き出すもの。
- ・児童が考えたい、解決したいと主体的に学びに向かうことができるもの。

(2) 国語科のねらいを達成するための伝え合いの充実

○伝え合う必然性をもたせる

→ 相手意識・目的意識をもたせ、児童が「伝え合わないといけない」、「互いの考えを伝え合いたい」と思えるような場を設定する。

○目的に応じた場の設定

→ 実態やねらいに応じて、ペアでの交流、グループでの交流、全体での交流等、「伝え合い」の形態を工夫して設定する。

○伝え合いの視点を明確に示す

- ・ねらいを達成するために、「何を聞くのか」「何を伝えるのか」という視点を明確に示し、価値付けることで、相手の考えを正しく理解し、自分の考えを適切に表現できる児童の育成を図る。
- ・「伝え合いレベル」を活用し、どのような姿を目指していくのかを児童と共有する。

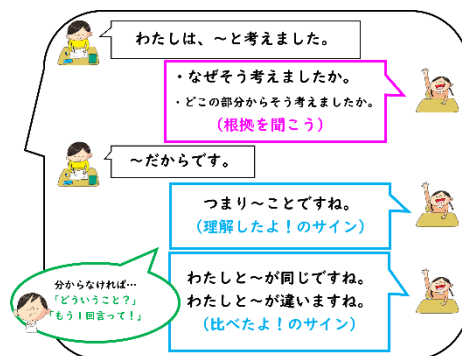
○伝え合いレベルを意識した「聞き手」の育成

→どのような対話をしたらよいか、具体例を示す。

【低学年】相手の意見を受け入れる。

【中学年】相手の意見を要約する。

【高学年】相手の意見と比較する。



○考えを構築、再考、広げ深めさせる

- ・自分の考えとの比較をさせる。(共通点・相違点)
- ・考えを再構築する時間を設定する。
- ・児童の発言をつなげるファシリテートをする。

(3) 児童を取り巻く学習環境の充実

○朝学習の活用

児童の実態を踏まえ、5分程度の朝学習を行う。

(例：語彙力を高める言葉遊び、読み聞かせ、ペアトーク等)

○校内掲示の充実

① 児童が楽しく語彙力を身に付けていけるような場の工夫

→掲示委員会と連携して、国語科に関する楽しみながら学んでいくことができるような掲示物を貼る。

② 校内で国語科の授業づくりを共有できる場の工夫

→・児童が作った成果物や学習の記録(教室だけでなく、学年の掲示板も活用する。)

・授業の中で使った掲示物

・単元の流れが分かるような掲示物 等

7 検証項目

- ① 標準学力調査(国語科)の「読むこと(説明文)」領域における平均正答率が、全国平均を上回る。
- ② 学校評価アンケート
【児童】「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」
【教職員】「主体的な学びに向かう単元づくりの工夫ができています。」
「自分自身の学びを自己調整できるように振り返りを位置づけている。」
- ③ 伝え合いアンケート
【低学年】「相手の考えを理解し、その場に合った反応をしている。」
【中学年】「相手の考えを聞いて理解したことを自分の言葉で要約している。」
【高学年】「相手の考えを理解した上で、自分自身の考えと比較しながら伝え合いを深めている。」

肯定的評価 %以上